

第5回十日町市学区適正化検討委員会会議録

開催日：平成30年12月18日（火）午後7時～

会 場：川西庁舎（第1研修室）

出席委員

高橋委員長、古澤副委員長、須藤委員、根津委員、渡邊委員、藤巻委員、丸山委員、水落委員、鈴木委員、江口委員、五十嵐委員、山賀委員、

欠席委員

田口委員、井上委員、南雲委員、小野塚委員

事務局出席者

蔵品教育長、樋口子育て教育部長、長谷川教育総務課長、山岸学校教育課長、山本指導管理主事、市川教育総務課長補佐

開会 午後7時

1 開会あいさつ 高橋委員長

前回からご意見をいただき新しい答申案のたたき台が出来た。本日も充分ご協議いただき完成に近づければありがたい。よろしくお願いします。

2 議 事

(1) 前回会議録の確認

高橋委員長・確認のうえ意見を求める。
(特に質疑なく承認された。)

(2) 答申案【たたき台】(30.11)への意見等

高橋委員長・資料の説明を求める。
・事務局により説明（長谷川課長）
高橋委員長・資料について修正が必要な部分の意見を求める。
(特に異議なく承認された。)

(3) 「十日町市立小・中学校の望ましい学区の在り方について（答申）」【たたき台】(30.12)について

高橋委員長・資料の説明を求める。
・事務局により説明（長谷川課長）

(4) 審議

高橋委員長・資料の説明を求める。
・事務局により説明（長谷川課長）
13-1 ページから 13-2 ページについて説明。

委員

・東小学校が中条中学校から離れると、中条中と下条中が統合しても人数が今とさほど変わらない。そうであれば、十日町中と中条中と下条中を統合してはどうか。

長谷川課長

- ・資料の 16-1 と 16-2 に再編表があり、それと関連がある。

高橋委員長

- ・13-2 に示したようになったとしても、次の段階があるということか。

長谷川課長

- ・どういう組み合わせになるかによって連動する部分になる。

高橋委員長

- ・この後に、検討することになる。次へ進めてよろしいか。
14 ページから 16-2 ページまで事務局の説明を求める。
- ・事務局により説明（長谷川課長）

委員

- ・川を渡っての統合は難しいのではないかと意見があった。平成 40 年度に吉田中、松代中、川西中で 183 人は学年 2 学級で 6 学級になると思うがどうか。

長谷川課長

- ・平成 40 年度には 6 学級になるが、平成 41 年度以降に大分減少する見込みがある。再編しても 1～2 年で 5 学級になってしまう。

委員

- ・そういう推計を示してもらわないと分からない。前回の意見に対してこうなっているという資料を出してもらわないと発言しようがない。

長谷川課長

- ・前回には通学の送迎が課題であり、路線バスを利用できないと説明したが、川西地域をまとめた資料が足りなくて申し訳ない。

委員

- ・路線バスの見込みがつかないということは、ほくほく線を使うことになるのか。

長谷川課長

- ・吉田、松代、川西を再編する場合、いずれも専用スクールバスで送迎が必要となる。南中や十日町中に再編する場合、民間の路線バスルートがあり定期券での利用が可能となる。

委員

- ・民間の路線バスと専用スクールバスの対比についてはどうなのか。それを加味しても川を渡って再編する価値があるのか。よし悪しを比較した上での理由づけが良く分からない。

長谷川課長

- ・専用スクールバスについては、台数が多くなり委託先のバスと運転員の確保が難しいと思う。

委員

- ・現状で民間のバスを利用している地域はあるのか。

長谷川課長

- ・貝野地区の中学生、川西地区の一部の中学生は路線バス、松代・松之山地域は市営バス、下条や六箇など市営バスを利用しているところは多い。

委員

- ・そこではスクールバスを使っていないのか。

長谷川課長

- ・専用スクールバスではない。

委員

- ・採算的にということか。

長谷川課長

- ・採算というよりは、専用送迎のための委託先の確保が厳しい。再編が進むと送迎対応が増えると思うが、全てを市が専用スクールバスで送迎することは難しい。特に朝の登校は一斉に運行することになる。

市川補佐

- ・スクールバスの送迎は、朝と夕方が中心でその間の運行があまりないので、運転手の確保が難しい。

委員

- ・平成 35 年度では川西中の統合先が無いということを資料に明記してほしい。なぜ川西中だけが統合しないのか、資料を見ただけでは分からない。

委員

- ・16-1 では平成 35 年に第 1 目標で中条と下条の再編、平成 40 年度に第 2 目標で中条、下条、川西の再編となっており、何れも学校名検討とあるが、再編して 5 年後にまた学校名が変わるのは大変なことである。第 2 目標を前提とした学校名の検討をした方がよい。もうひとつ、津南町でも学区が広くてスクールバスだけでは対応できず、南越後観光バスと協定を結び、津南小学校前をバス停にして、津南小学校発のバスを運行した。学校の登下校を前提としているが、誰が乗っても良いバスとしていた。

高橋委員長

- ・中里中でも通学はスクールバスであるが一般の方も乗車している。子どもたちにとってスクールバスと路線バスのどちらが良いか比べるのは難しいが、路線バスは地元の方とのふれあいがありそれも大事なことだと思うので、路線バスを使うことも良いと思う。
- ・中学校の再編について 2 案示されているが、皆さんの意見を求める。

委員

- ・14 ページに水沢中学校または中里中学校に再編となっており、前回は水沢中学校に再編になっていたが変わった理由を知りたい。

長谷川課長

- ・同規模の学校ということと旧市町村の区域を越えた再編であることから、どちらかに絞って示すのは難しいと考え、学校名を併記して学校名を検討するとした。

高橋委員長

- ・16-1 と 16-2 ページで平成 40 年度に川西中をどこに再編するのか意見を求める。

古澤副委員長

- ・川西中学校が中条中学校に再編するとなっているが、中条、下条が川西の方へ再編することは出来るのか。

長谷川課長

- ・施設の規模が足りないため出来ない。川西中学校は最大で 6 学級である。

委員

- ・昨年度生まれた子どもの数が 263 人である。平成 40 年度に再編してもその後中学生が 700 人程度になればさらに再編を進めなくてはならず、2 校か 3 校にならざるを得

ない状況が人口推計からも想定できるのではないか。平成40年度になればまた再編についての協議を行い、学校名が変わるなど再編の話をするのであれば、地域にとってもすぐに了解とはいかないと思う。この再編によりしばらく再編は無いという方針がないと、地域や携わる人たちにとって難しい状況になるのではないか。それについてどう考えているか。

樋口部長

- ・今までの議論については、第2回、第3回のワークショップで基本的な方針を審議いただき、小学校は複式学級が解消される6学級以上、中学校はクラブ活動の関係やクラス替えが出来る1学年2学級以上という基本的な方針を検討していただき、それに沿ってたたき台を準備してきたのでそれをベースにお願いしたい。ただ議論を戻してもっと大きな学校再編を否定するものではない。

委員

- ・ワークショップで検討した内容によってこの形をつくったとしか受け取れなかった。さらに再編が必要となったときのことを整理しておかないといけないのではないか。

樋口部長

- ・今回は計画年次が10年間であり、その先についても考えられると思うが、まず10年間でどこまでが必要なのかを検討のベースとして流れてきたと考えている。

委員

- ・10年間であれば、吉田、松代、川西の再編もあるのではないか。わざわざ橋を渡ってということではなく、地域に学校がなくなるというのはやはり大変なことなので、住民が納得できるような形でないとお示しできないと思う。地域自治組織などにも説明すると思うが、前回も出た意見でもある。

委員

- ・10年という括りを我々は分かっているが、地域で大きなことをやるには長いスパンで考えなければならない。先を見た中の10年であるべきで、10年後にまた話が出るようでは、常に話が出るようなもので、市として長期的な考えの中の10年という方が良いのではないか。筋道があった方が地域の中でも話しやすいのではないか。

委員

- ・松代、川西、吉田の再編について、川西と吉田は同じ大地と思うが、松代は川を渡り山を越えるためバス通学となる。鉄道であれば10分程度のところが路線バスの乗り継ぎでは子どもに負担が大きい。10年のその先の再編について検討することも大事だが、子どもたちのために複式学級を解消するなどの基本方針を進める議論をしないと進まないと感じる。

高橋委員長

- ・10年から先のことは、ここで明確に表すことではなく、そういった表現を入れるということが良いか。10年から先のことを考えて再編を考える方が良いと言うなら、もう一度人数的なことなどから検討することになると思うがいかがか。

委員

- ・中学校の再編に踏み込むのであれば、学校が新たな歴史を紡いで行く時間と地域の醸成が必要と思う。10年経ったらまた検討しますというのでは、学校の歴史と地域のつながりができない。20年30年は、地域とのつながりに必要だと思う。方向性というのは少子高齢化の中で厳しいのは分かるが、新しい学校としての地域とのつながりを考えなければいけない。学校の組み合わせについて考えているが、最終的には十日町

市内に中学校は2校程度の人数になってしまうと思う。それを見据えた中で全体を考えなければならない。高校生は電車やバスで通っている。中学生に出来ないとは思わないので、それを踏まえて考えて良いのではないか。

高橋委員長

- ・例えば20年後30年後を見据えた中でどうするのかある程度考えて、組み合わせを決めた方がいいということか。

長谷川課長

- ・再編を考える上でもうひとつ施設的な条件があり、既存の施設を最大限に活用することになると、10年後の人数を受け入れられる最大限の再編案である。

高橋委員長

- ・その先を考えた再編ということで、例えば20年後30年後に生徒数が半分になったときの再編まで考えてほしいということか。

委員

- ・そこまで踏み込んでいかないと、先ほどの話のようにまたかとなり、地域で話が進まないのではないか。

委員

- ・考え方は解るが、20年30年先のことがクローズアップされ、動けなくなるのではないか。人数が少なくなるまで待っていることにならないか。

委員

- ・平成21年度の第1次方針で進んでいない再編がある。進まなければ5年10年はあっという間に過ぎて、目標を強制的に実施することでもないため、時間だけが過ぎて次の方針を検討することになると良くない。ある程度の予測数値の中で、こういう状況になるのでこうしなければいけないとなるべきである。

委員

- ・色々議論する中で早急に完成した方がいいということで、再編計画を検討している。もっと現実的にしないと、20年先にこうなるということでは話が進まないと思う。今のままで行けばいいじゃないかとなり、問題となっている教育環境が改善されていかないと思う。20年先はこうなるとは、誰も明確に読めないのではないか。

委員

- ・10年先を考えると川西中はまだこのままでやっていけると思っても、その先10年では十日町市で中学校が2校になるのであれば、その前段階として交通の便など考慮して川西中が中条中に再編し、吉田中が南中に再編するというのを理解できるが、いきなり組み合わせを見せられたときには違和感があった。今解る予想では中学校が2校になり、その前段階としてこういう再編になると説明があれば良かった。資料が少な過ぎてわからなかった。

高橋委員長

- ・現実的な問題として、ここでは10年後のある程度の方向を出したい。それを踏まえて川西中がどこへ再編するのか意見を求める。

委員

- ・川西中について、平成35年度に南中、吉田中、松代中の再編とあるが、松代については川西よりも十日町の方が通学には交通の便が良い。平成35年度に一旦吉田中と川西中が再編し川西側に学校を残し、平成40年度に南中へ再編するような案でもいいのではないか。地域住民が了解するか分からないが、時間的なものは解消されるの

ではないか。

松代地区では、40年の間に中学校が1つになり、小学校も1つになり、統合というよりも廃校という形で減ってきた。伝統というのは、新しく校名を変えると1から始まるが、松代では吸収統合で校名も残り、廃校された学校には申し訳ないが伝統は引き継がれてきたと思う。統合したから安易に新しい校名にするのではなく検討した方が良いと思う。

委員

- ・今の吉田中と川西中の再編についての意見ですが、川西中と吉田中が再編しても140人程度で6学級にはならず目標から外れてしまい、短期間にまた別の学校と再編することになり保護者などから疑問の声が出るだろう。松代中と吉田中を分けた再編を検討したことはあったのか。

長谷川課長

- ・吉田中と川西中の人数の推計から、基本的な考え方によると6学級に満たないため、検討はしたが3校での再編という案になった。

委員

- ・前回に川西中が十日町中と再編する理由では、妻有大橋経由のバス路線があつて学校の近くまで行くことができると説明されたが、吉田中から十日町中側へのバス路線があるのか。南中に限らず十日町中への再編は考えられないか。

長谷川課長

- ・運行本数は少ないと思う。妻有大橋からクロステン方面に行っているか分からない。

委員

- ・吉田中から十日町中へ行くことは現実的ではないということか。南中なら可能ということか。

長谷川課長

- ・既設の路線バスルートを利用すると南中の方が、交通の便が良い。

委員

- ・そうすると川西中と吉田中を別のタイミングで再編するのは、手間が増えるだけのよう思う。松代中が南中と再編するなら一緒の時期に吉田中も再編した方がいいと思う。土地柄とすると川西中は吉田中と再編するのが自然であるが、規模的に足りないと成れば、松代中と吉田中を分ける必要はないと思う。

委員

- ・飛渡第二小が統合する際に、飛渡第一小と統合してその後に中条小に統合することにはせずに中条小に統合したのはなぜか。

委員

- ・統合してその後また統合となるのがいやだった。当時の学校児童の保護者と未就学児の保護者が相談して結果に地域が従った。今は23世帯で9人の小学生がおり、子どもが増えてきている。

委員

- ・5年の間に度々の統合はいやだと思う。

委員

- ・飛渡第二小が飛渡第一小と統合すると複式は解消されるのか。そうでなければ、大きな学校と統合して複式を解消する方が良いという考えになるだろう。

委員

・中学校は中条中で一緒になるので、そういう関係もあるだろう。

高橋委員長

・答申案としては、川西中が平成40年度にどこに再編するのか2つの案が挙げられているが1つに絞るのか。

委員

・中条中と下条中にしても、いずれは十日町中と再編することになるのではないか。

高橋委員長

・それはそうなるかも知れないが、今回の答申の中にはどうしたらいいか。

委員

・5年後はこうなり、10年後はこうなるという道筋がわかると良いと思う。

委員

・東小学校の児童が、そのまま十日町中に進学する案だと川西中が十日町中と再編しても施設の受容は可能か。東小の児童が分かれて進学することを解消した上での再編方法も検討しておくべきではないか。

長谷川課長

・その場合は、十日町中に何とか受け入れできるとしても、中条中と下条中の再編校の人数が少なくなる。

委員

・先ほど意見が出たように、10年先ではなくその先には市内で2校くらいになり、度々の再編はつらいと言うことを考えると、川西中は十日町中と再編した方が、再編の回数が少なくていいのではないかと思う。しかし、中条中と下条中の人数が少なくなってしまう難しい選択になると思う。

高橋委員長

・東小が全員十日町中に進学した場合に川西中と再編しても施設的には大丈夫なのか。

長谷川課長

・平成40年度になると川西中の人数が107人になる見込み、十日町中が240人なので350人程度となり受け入れ出来るかも知れないが、学年ごとの人数を再計算してみないとはっきりしない。

委員

・人数合わせだけで組み合わせても難しいところがある。

委員

・10年後20年後ということになると、十日町中と中条中が大きい学校なのでそちらに再編が進むイメージがある。もしそういうイメージがあるのであれば、そのイメージを持って検討しないと人数合わせでは地域の感情などがあり難しい。最終的には市内の中心部分に再編が集まってくるというイメージの再編を考えていく方が良いと思う。

高橋委員長

・今2つの組み合わせ案があるが、他の組み合わせの意見も挙げられている。最終的には1つに絞ることになると思うが、東小が全員十日町中に進学し、川西中と再編することも案として良いか。

委員

・中条中、下条中、川西中の3校で再編した場合に、継続していけるのであればそれでも良いが、結局十日町中と南中を中心とした2校になるというのであれば、川西中は

十日町中に再編した方が良いのではないかとということであり、必ずしもそれが良いということではなく、個人的な意見である。また、バス路線についても、中条につながる路線が通っていない地区もあるので、他の路線かスクールバスの乗り継ぎになるため、対応できるのであれば中条中も考えられる。

高橋委員長

- ・今ここで決めるには難しいようなので、委員皆さんから意見を伺いたい。後ほど用紙を配布するのでまた次回に検討することとしたい。

長谷川課長

- ・再編案についての要望があったので、それを盛り込んだ内容を次回までに送付し、意見を返していただくこともできる。

高橋委員長

- ・では、そのように後で資料を送付するので意見をいただくこととしたい。

委員

- ・再編案の資料には、再編時点の学校別の人数と学校の教室数などが無いとイメージしにくいので記載してほしい。

委員

- ・今まで意見のあった通学の方法や、東小学校から全員同じ中学校へ進学するなど、検討するに当たっての前提条件を加えた方が案を作りやすいのではないかと。

樋口部長

- ・前提条件を決めていただければ、それで用意する。

山本指導管理主事

- ・東小にとっては大きな問題である。ここで決められないのではないかと。

委員

- ・そのとおりで、説明や説得が大変である。通学距離的なものや過去の経緯や住民感情に配慮が必要である。

高橋委員長

- ・只今の意見と人数等を含め、文書を送って皆さんから意見をいただくようにしたい。
- ・17 ページ 18 ページについて、事務局の説明を求める。
- ・事務局により説明（長谷川課長）

委員

- ・小学校には、複式学級校から再編先への学区外就学許可条件の追加とあるが、その条件が追加された場合に複式学級校に就学している児童は対象となるのか、新たに就学する児童が対象となるのか。

長谷川課長

- ・基本的には新入学児童を対象と考えている。在校生は複式学級解消の調整が1年間必要となる。

委員

- ・この対象となる児童は、平成32年度に入学する児童でいいか。

長谷川課長

- ・その年度については、教育委員会で検討中である。

委員

- ・目標年度で小学校が3年だが、中学校がもう1年長いのはなぜか。

長谷川課長

- ・中学校については、新たに再編の方針が示されるので、地域への説明と学校間の調整が必要と考える。検討委員会の意見にもあったので、目標年度に幅を持たせた。

高橋委員長

- ・小学校については、第1次方針で説明をしているためある程度は承知していると思われる、中学校については新たな方針になるので説明に時間を要するのではないか。

総務文教常任委員会で説明した際に、議員から何か意見はあったのか。

長谷川課長

- ・住民への説明や意見を聞いて欲しいとの要望はあった。

高橋委員長

- ・19ページについて、事務局の説明を求める。
- ・事務局により説明（長谷川課長）

高橋委員長

- ・最後に全体を通して意見を求める。
(特に質疑なし)

(5) その他

特になし

高橋委員長・本日の議事を終了する。

3 その他

- ・事務局により説明（市川課長補佐）
- ・第6回会議について、1月22日または23日で追って通知する。

4 閉 会

古澤副委員長あいさつ

- ・お疲れ様でした。今回も活発な意見交換が行われ、再編案についても検討され、小学校では複式学級解消などを以前から話し合われているが、デメリットばかり考えていては前に進まない。その先の子どもたちにとってのメリットをもっと考えて声に出していくのも大事だと感じた。第6回会議についてもよろしくお願ひしたい。

午後8時55分 終了